

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）ワクチンについての提言

公益社団法人日本放射線腫瘍学会

がん患者さんは、新型コロナウイルスに感染した場合に、基礎疾患や全身状態、がんの進行度や治療内容などにより、重症化するリスクがあります。厚生労働省によると、新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち重症化しやすいのは、高齢者と基礎疾患のある方で、基礎疾患があれば年齢によらずリスクが高くなります。新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）ワクチンは、ワクチンの成分のいずれかに対して強いアレルギー反応がない限り、基礎疾患を持つ人に投与することができます。がん患者さんにおける新型コロナウイルスワクチンの有効性や安全性に関するデータは十分に出ていませんが、このワクチンは従来のインフルエンザワクチン等と比較して極めて有効性が高く、COVID-19 発症および重症化の抑制に高い効果が示されています。

ワクチンの接種に際しては、その利益とリスクを十分に評価して、接種するかどうかを自分で判断することが必要です。ただし、がん患者さんにおいては、がんの種類と進行度に応じて必要な標準治療を早期に開始する必要があります。ワクチンの接種によって、がんに対する標準治療を遅滞なくより安全に進められる可能性があることも考慮すべきです。放射線治療の患者さんでは、過去にワクチン接種で重大なアレルギー反応が現れたことのある人や病気で全身状態(PS)が著しく不良な方以外、利益がリスクを上回ると考えられます。

日本放射線腫瘍学会 (JSTRO) は、現在放射線治療を含むがん治療を受けている患者さん、あるいはこれから治療を受ける患者さんには、ワクチン接種の時期、注射の場所、治療内容に関連した注意事項などについて、担当の放射線腫瘍医に相談することをお勧めしています。また、がんの既往歴のある患者さんにも、ワクチン接種が可能になった場合には早めに接種を検討することをお勧めします。